

第二回内川未来戦略会議 振り返り (2024.8.23)

内川未来戦略会議の命題：今後、内川がどのようなエリアを目指すべきか、内川が持つ価値を共通認識できるようにしていく

第2回テーマ：「稼げる観光と祭りの持続可能性」

委員による主な提言

- ・内川の観光ターゲットは適切か？観光客の受け入れ体制を整備すべき
 - ↳ ソフト：高単価な人ではなく対象が「映え」を狙う若者になっており見直すべき／ハード：空き家活用、観光船の活用など価値を上げる体験を作る
- ・観光戦略を点ではなく広域として捉え、分散型・周遊型で考えるべき
- ・射水市として内川の具体的な戦略（KPI・実施項目）を設計すべき
- ・祭りのマネタイズ化すべき（有料席やグッズ販売などのプログラム造成、情報発信、イベント出展などプロモーション）
- ・祭りの地域社会における役割を再認識すべき
 - ↳ 地域内外の持続的なつながりを作るなど、地域課題の解決策となる／地域を知ってもらうきっかけや貴重な観光資源となり、地域経済へ影響を与える

提言を踏まえた、委員による意見交換

あるべき施策の方向性

前提共有の重要性

戦略設計と価値の言語化が重要／祭りの意義や「祭りで稼いで良い」という共通認識を持つべき

内川だけでなく エリア一帯で考える

- ・海王丸パークまで含めたエリアで回遊性を上げる
- ・しろえび漁の充実と連携（マンパワー不足解消が必要）

祭りのガイドの整備、 楽しみ方の充実

- ・どう見ていいかわからない、どこを通るかわからない状態の解消
- ・ガイド役の整備と充実
- ・グッズの充実（推し色など）

祭りの受け入れ体制 の整備

- ・祭りが地域と外をつなぐ、知ってもらう機会という認識を持つ
- ・飲食店が空いておらず、外から来た人が食事ができないという状態の解消

ファクトベースの 祭りの分析と対策

- ・ファクトを分析して具体的な対策を議論する場を作る
- ・人手不足解消や持続可能な形にするためにまち全体で対策を検討する